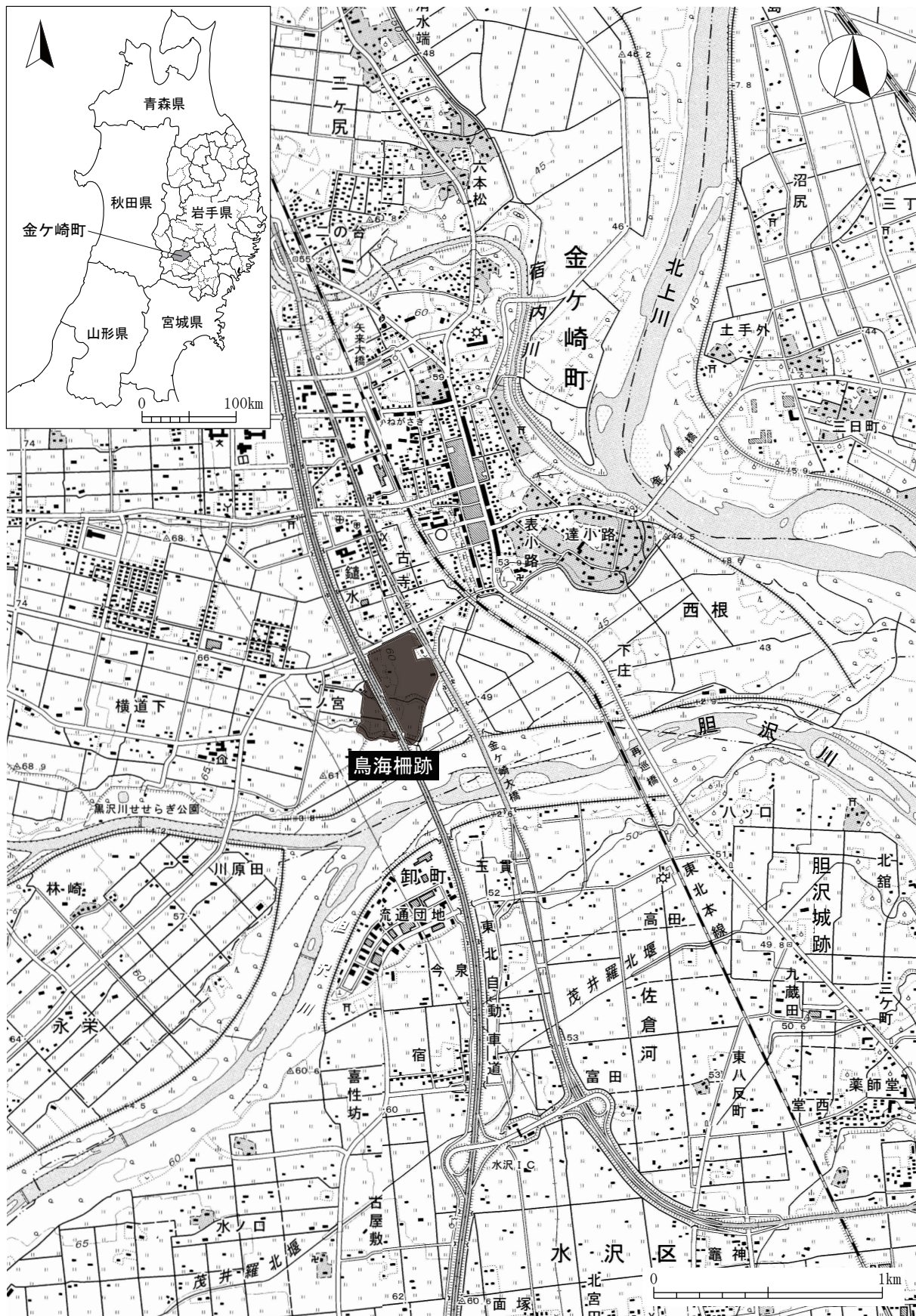
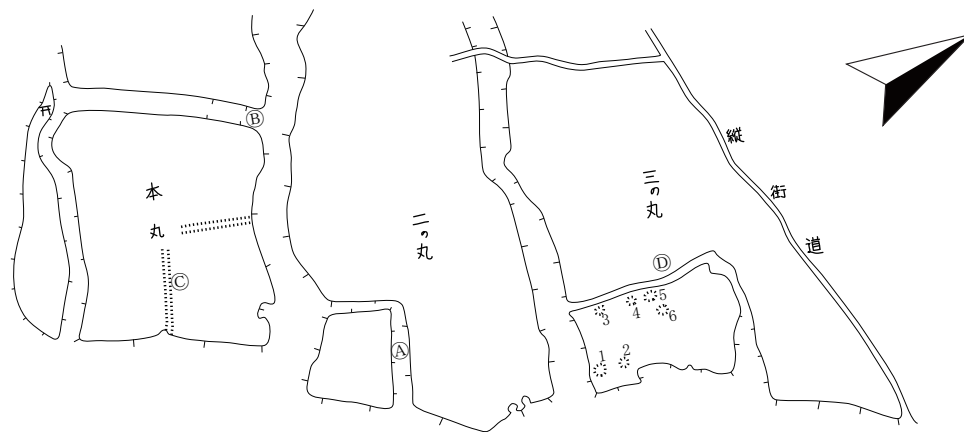




第4図 史跡位置図



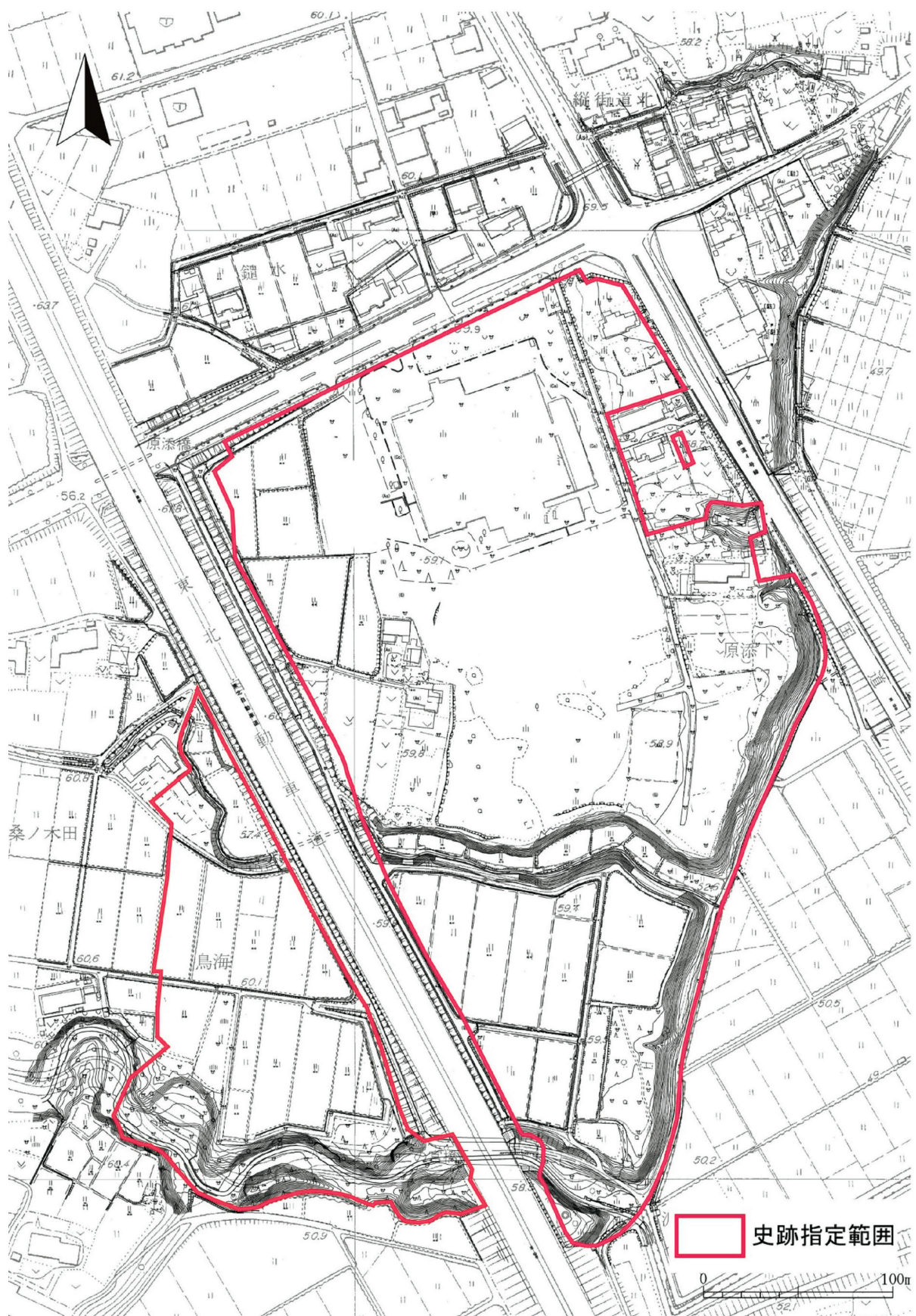
(『金ヶ崎町西根遺跡』より引用)

第5図 鳥海柵見取図

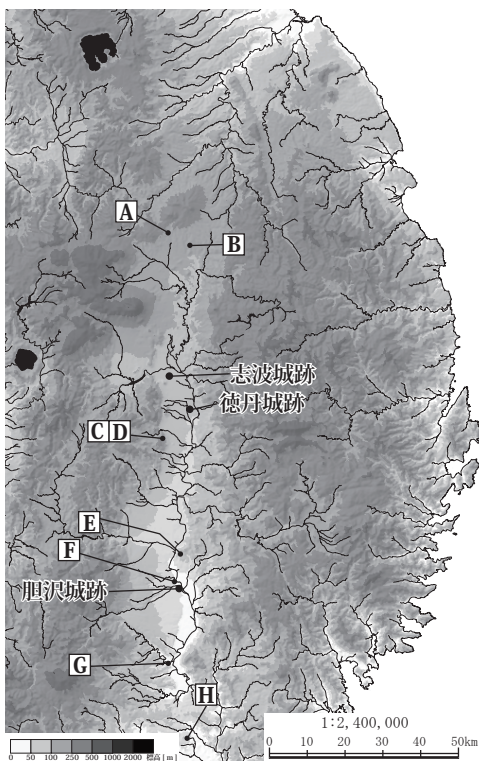


(『岩手縣陸中國膽澤郡西根村』の記載があることにより明治期と想定)

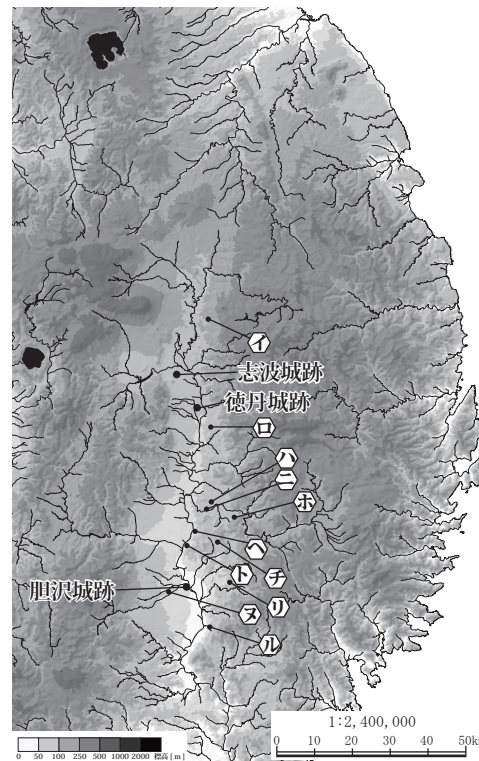
第6図 鳥海柵跡周辺地籍図(旧公図)



第7図 遺跡地形図



第8図 岩手県内の11世紀の和鏡所在地



第9図 岩手県内の11世紀の仏像所在地

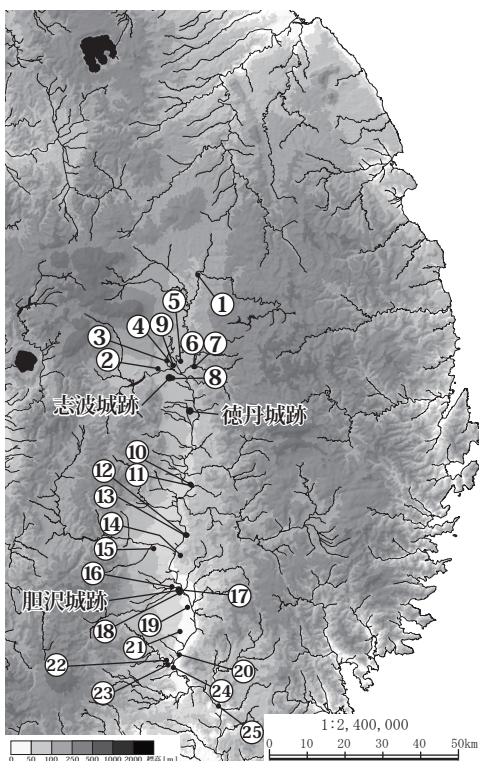
第8図 岩手県内の11世紀の和鏡所在地

No.	遺跡名	所在地	出土品
A	白坂薬師堂	八幡平市西根町	瑞花鸞文八稜鏡
B	どじの沢遺跡 (大森どじの沢小堂跡)	岩手郡岩手町	瑞花双鳳文八稜鏡
C	新山寺旧本堂跡	紫波郡紫波町	樺文双雀鏡 菊花双雀鏡 秋草双雀鏡 梅花鏡
D	新山寺神社境内		流水菊花双雀鏡
E	国見山廃寺跡	北上市稲瀬町	瑞花双鳳八稜鏡 瑞花双鳳八稜鏡
F	伝白糸柵跡	胆沢郡金ヶ崎町	瑞花双鳳八稜鏡
G	中尊寺境内	西磐井郡平泉町	唐草双鳥文五花鏡
H	熊谷氏宅内東祠旧地	一関市花泉町	梅花双雀鏡

第9図 岩手県内の11世紀の仏像所在地

No.	社寺名	所在地	仏像
イ	東楽寺	盛岡市玉山区	十一面観音立像 力士像
ロ	正音寺	紫波郡紫波町	明王像四体
ハ	凌雲寺		十一面観音立像
ニ	成島毘沙門堂	花巻市東和町	伝阿弥陀如来立像
ホ	丹内山神社		十一面観音立像
ヘ	白山神社	北上市黒岩	男神坐像
ト	立花毘沙門堂	北上市立花	毘沙門天立像
チ	萬蔵寺	北上市口内町	男神立像 十一面観音立像 女神立像 薬師如来坐像
リ	藤里毘沙門堂	奥州市江刺区	兜跋毘沙門天立像
又	功德山観音寺	胆沢郡金ヶ崎町	伝聖観世音菩薩
ル	黒石寺	奥州市水沢区	伝慈覚大師坐像

第10図 岩手県内の平安後期の遺跡



第10図 岩手県内の平安後期の遺跡

1 沼崎遺跡	岩手郡岩手町	14 極楽寺(国見山廃寺)跡	北上市稲瀬町
2 大釜館遺跡	岩手郡滝沢市	15 岩崎台遺跡群	北上市和賀町
3 境橋遺跡	盛岡市西青山	16 鳥海柵跡	胆沢郡金ヶ崎町
4 大新町遺跡	盛岡市大新町・南青山町	17 胆沢城跡	
5 高松神社裏遺跡	盛岡市高松	18 伯済寺遺跡	奥州市水沢区
6 柿ノ木平遺跡	盛岡市浅岸	19 跡呂井遺跡	
7 根根遺跡	盛岡市	20 白鳥館遺跡	奥州市前沢区
8 大宮北遺跡	盛岡市本宮	21 下町遺跡	
9 大館町遺跡	盛岡市大館町・大新町	22 長者ヶ原廃寺跡	奥州市衣川区
10 宿遺跡		23 中尊寺真珠院・金剛院	西磐井郡平泉町
11 蛇蛭蛆遺跡	花巻市石鳥谷町	24 柳之御所遺跡	
12 黒岩城跡・黒岩宿遺跡	北上市黒岩	25 河崎の柵擬定地遺跡	一関市川崎町
13 白山廃寺(白山堂山頂)跡			

6 安倍氏の伝承

本節において、安倍氏の伝承とは、前九年合戦とその合戦前後にまつわる安倍氏(貞任・宗任)と源氏(義家)、また両者の関わりについて今日まで語り伝えられてきたものと定義する。伝承の収集は主に文献から行った。さらに、岩手県内各市町村、金ケ崎町内の各自治会へアンケート調査を行い、伝承地分布図の作成をした。

(1) 伝承地の分布 【第 11 図 第 1 表】

安倍氏の伝承は東北地方各県その他、群馬県、新潟県、富山県、長野県、茨城県、京都府、福岡県、大分県、長崎県にある。なかでも九州地方北部には比較的多くの伝承が残る。

伝承の内容は安倍一族が築いた城館、一族の墓、一族を祀る神社の創建が中心である。伝承に安倍宗任が登場し、内容が具体的に伝わっているものについて別表で紹介する。岩手県については、(2)で記述する。

(2) 岩手県の安倍氏関連伝承地

①岩手県の安倍氏関連伝承分布状況【第 12 図 第 2 表】

岩手県内における安倍氏関連伝承地は254ヶ所、伝承の総数は 258 を採集した。

②安倍氏伝承と安倍氏 12 柵について【第 13 図】

陸奥話記によれば、安倍氏は北上川流域に12の柵を築き源氏軍と戦っている。

『平泉藤原氏の祖・安倍氏の戦い 陸奥話記-前九年の役-板橋源先生の講義より』の「陸奥話記所見安倍氏諸柵表」を基に、市町村アンケート調査、発掘調査報告書により12柵図を作成し、それに県内の安倍氏関連伝承の分布を合わせた。

12 柵の中でも、藤原業近柵(奥州市)、鳥海柵(金ケ崎町)、姫戸柵・厨川柵(盛岡市)の周辺は伝承の密集地と符合し、他の 8 柵は伝承とは一体とならない。このことは 8 柵の有無ではなく合戦時における柵の意味、役割そのものの検討を要すると思われる。

③安倍氏伝承と鳥海柵の擬定地について

安倍氏12柵の所在について今日まで多くの研究が行われてきた。その中で鳥海柵について市町村アンケート調査と合わせてみると岩手県内に 7 ヶ所みられる。

	鳥海柵擬定地	出典
1	一戸町西法寺字稲荷	岩手県管轄地誌 一戸町誌 アンケート調査
2	花巻市鳥谷ヶ崎(鳥谷ヶ崎城・花巻城跡)	日本先住民族史 アンケート調査
3	一関市大東町興田字鳥海	日本先住民族史 岩手県管轄地誌 アンケート調査
4	北上市鳥海柳	日本城郭大系
5	金ケ崎町永沢鳥の海	日本先住民族史
6	金ケ崎町西根鳥海・原添下・縦街道南	日本先住民族史 日本城郭大系
7	奥州市前沢区前沢字鳥海	大日本地誌

一戸町西法寺字稲荷地区は、地区内に「鳥海」姓がみられるが、安倍氏や前九年合戦、柵にまつわる伝承はほとんど伝わっておらず、面的なものではない。花巻市鳥谷ヶ崎城跡、一関市大東町鳥海、奥州市前沢区字鳥海、北上市鳥海柳は、その地名に「鳥海」及びそれに近いものが含まれているが、同様に伝承については面的なものではない。

金ケ崎町西根鳥海は伝承地と一致する。同町永沢鳥の海は伝承地の一つと考えられる。鳥海柵の所在は近世からの資料にも見られ、伝承地の所在と比定してみる。寛延 4 年(1751)の『増補行程記』には金ケ崎要害の南口が描かれており、南口から西方向の西根

鳥海地内に「貞任がものミ館と承候」とある。また、安永5年(1776)の西根村『風土記御用ニ付書上控』には鳥海館が書かれている。大正5年(1916)の『奥羽沿革史論』、大正10年(1921)の『金ヶ崎村誌』、大正14年(1925)の『鎮守府八幡宮と胆沢城址』の付図には、現金ヶ崎町西根鳥海地内に鳥海柵と書かれている。伝承の分布と、近世・近代の資料が一致することとなる。

(3) 金ヶ崎町の安倍氏関連伝承地【第3表】

金ヶ崎町では、主に胆沢川の流域と、胆沢川・北上川の合流点に伝承地が分布する。

第1表 全国の安倍氏関連伝承一覧

○青森県			
伝承地	所在地	内容	出典
横浜館	上北郡横浜町	源義家の臣、佐々木兄弟が居住。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
安倍館	上北郡六ヶ所村	安倍貞任の陣所で八幡館と相対した。	
八幡館	三沢市	八幡太郎義家の陣所で安倍館と相対した。	
藤崎城	南津軽郡藤崎町	貞任の子の子堯恒が建立。	
○秋田県			
伝承地	所在地	内容	出典
門屋城	仙北市西木町	安倍氏の六男、北浦六郎重任の居。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
種沢城	秋田市雄和	安倍氏残党種沢太郎の居。	
安倍館	にかほ市	安倍頼時の時代の出城。	
○宮城県			
伝承地	所在地	内容	出典
古湊御林	東松島市	八幡太郎義家の陣跡。	『石巻の歴史』第一巻 通史編（上）
鈴原館	東松島市	八幡太郎義家が野陣を張った所。	
袴館	東松島市	八幡太郎義家が貞任を討つ時の御装束場。	
保呂羽館	栗原市	安倍貞任が落した館。	
宮岡遺跡	栗原市	源頼義・義家が軍の編成をした。	『日本城郭大系第3巻 山形・宮城・福島』
駒場館	栗原市	源頼義が勧請した八幡神社がある。源頼義・義家の古道。	
伊勢堂館	栗原市	八幡太郎義家の陣所。	
榊形館	栗原市	前九年合戦に絡む伝承あり。	
鶴館(鶴子坂)	石巻市稲井町	八幡太郎義家の居館。	
館ヶ崎館	石巻市	八幡太郎義家の居住。	
安倍館	石巻市	安倍貞任が籠城した。	
陣ヶ森館	石巻市飯野川・馬鞍	八幡太郎義家の陣所。	
京ヶ森館	石巻市雄勝町	安倍氏の居館か。	
牛ノ鞍館	石巻市	宗任の居館。	
陣ヶ森館	石巻市真野	八幡太郎義家の居。	『石巻の歴史』 第一巻 通史編（上）
矢櫃沢	石巻市	八幡太郎義家が矢の櫃を置いた所。	
披露見山	石巻市	八幡太郎義家が貞任の京ヶ森館の様子を検分した所。	
腰懸石	石巻市	腰掛けて、首実検した所。	
遠見石	石巻市	石の上で遠見した。	
首塚	石巻市	京ヶ森館攻撃の時、討ち取った首を埋めた所。	
京ヶ森館	石巻市沼津・真野・沢田	貞任の城。	
百間長屋	石巻市	貞任が京ヶ森館在城の時、百間の長屋を建てた所。	
引張	石巻市	貞任が弓を張った所。	
籠	石巻市	貞任勢が籠っていた所。	
矢取山	石巻市	貞任が遠矢を取申した所。	
毘沙門堂	石巻市	貞任の守本尊、貞任の位牌。	
大似田	石巻市	大蛇の生んだ子が貞任という伝承がある。	
御陣場跡	石巻市	八幡太郎義家が貞任と合戦した場。	
日招塚	石巻市	八幡太郎義家が扇を持って日中の明るさを取り戻した伝承。	
鞍懸島	石巻市	八幡太郎義家が馬の鞍を下して休んだ。	
腰掛石	牡鹿郡女川町	八幡太郎義家が腰掛けて休んだ所。	
弓弦石	牡鹿郡女川町	八幡太郎義家が石の上に弓を懸けて弦を張った所。	
清水	牡鹿郡女川町	八幡太郎義家が矢で岩に穴をあけ、清水が湧き出た。	
箱清水	牡鹿郡女川町	八幡太郎義家が矢を持って岩に穴をあけた所。	
鳥海神社	石巻市給分浜	大型定置網「大謀綱漁」の創始者の鳥海弥三郎を祀っている。	『旧牡鹿町町史』
鳥海濱	亶理郡亶理町	ここで鳥海彌三郎が生まれて鳥海濱と名前が付いた。	『奥羽観蹟聞老志巻之四』
石間館	亶理郡亶理町	八幡太郎義家人員を差し置いた所。	『日本城郭大系第3巻 山形・宮城・福島』

○宮城県

伝承地	所在地	内容	出典
中島館	亶理郡山元町	源頼義に従軍した亶理権太夫権十郎父子と関係ある館。	『日本城郭大系第3巻 山形・宮城・福島』
多賀城	多賀城市	源頼義・義家が城を拠点として乱の鎮圧をしていた。	
根添館	仙台市	安倍氏の一族の館。	
大館	名取市	貞任の家臣が籠った所。	
御所館	白石市	源頼義が居住。	
錦戸館	白石市八宮	別称・安倍館。	
小坂城	角田市	源頼義の陣所。	
禿山館	伊具郡丸森町	八幡太郎義家の陣所。	
松島館	登米市	八幡太郎義家の館。	
古館	大崎市	八幡太郎義家の陣所。	
鬼切部館	大崎市	安倍頼時が館主。	
矢楯館	大崎市	宗任が拠った所。	
鴻ノ巣館	加美郡色麻町	前九年合戦の古塁。	
指波館	加美郡色麻町	安倍氏側の陣所。	
鶴田崎館	黒川郡大郷町	八幡太郎義家が築造。	『けせんぬま口碑伝説散歩』
巨釜・半造	気仙沼市唐桑半島	「貞任岩」貞任が義家から逃れてきたときに隠れた。「義家岩」義家が仁王立ちになった。	
母子石	塩釜市玉川	安倍宗任が捕えられて多賀城にいたとき、その妻子がこの地に来て哀しみ泣いた時の足跡という。	『仙臺叢書別集卷四』塩松勝譜

○山形県

伝承地	所在地	内容	出典
鳥海山	飽海郡遊佐町他	宗任の誕生地とその領地に関係するとされる。	『奥羽観蹟聞老志卷之四』
蔵岡館	飽海郡遊佐町	安倍貞任・宗任の兵乱。黒沢尻五郎正任が築いた。	『日本城郭大系第3巻 山形・宮城・福島』
吹浦館	飽海郡遊佐町	安倍殿堀（鳥海山の西麓）と呼ぶところあり。	
樽橋館	酒田市	かつて安倍貞任の石塔があった。	
山谷館	酒田市	安倍貞任が奥州から落ち延びた館。現在安倍姓が多い。	
朝日山城	酒田市	源義家が東征の折に勧請。	
新田目城	酒田市本楯	源義家が臣須藤氏に任じ、築いた。	
阿部館	最上郡戸沢村	安倍貞任が八幡太郎義家討伐の時の陣所。	
八幡館	最上郡戸沢村	源義家が貞任討伐の時の陣所。	
高坂館	最上郡真室川町	鳥海弥三郎一族の城。	
小桜館	長井市大町	宗任の娘卯の花姫の居館。	
御館山館	西置賜郡飯豊町	貞任の一族太郎松人の居館。	

○福島県

伝承地	所在地	内容	出典
本内館	福島市本内	源頼義の陣所。	『日本城郭大系第3巻 山形・宮城・福島』
宮代館	福島市瀬上町	源頼義が築いた。	
四本松城	二本松市	源義家の将として功あった伴助兼が勧請した。	
袖ヶ城	西白河郡矢吹町	源頼義の陣所。	
三芦城	石川郡石川町	源頼義の陣所。	
羽黒館	東白川郡塙町	八幡太郎義家の伝説が残る。	
勿来関	いわき市	八幡太郎義家の歌枕。	
戸倉館	東白川郡鮫川村	貞任の伝説が残る。	

○新潟県

伝承地	所在地	内容	出典
京ヶ岳城	上越市	宗任・貞任一族が住したとの伝説もある。	『日本城郭大系第7巻新潟・富山・石川』

○群馬県

伝承地	所在地	内容	出典
藤原村	みなかみ町	安倍頼時・貞任・宗任の墓あり。	『アテルイ・宗任―終焉を追って―』

○茨城県

伝承地	所在地	内容	出典
宗任神社	下妻市	貞任・宗任を祀った神社。	『宗任神社由緒』

○富山県

伝承地	所在地	内容	出典
高嶺城	富山市	宗任が奥州から転退したとき最初の拠点として築いた。	『日本城郭大系第7巻新潟・富山・石川』

○長野県

伝承地	所在地	内容	出典
阿部神社	大町市	仁科氏は祖を安倍貞任とし、仁科氏を名乗った。	『安倍氏シンポジウム報告書』（衣川村）

○京都府

伝承地	所在地	内容	出典
人尾峠	京都市右京区	貞任の足を埋葬した所。	『京都丹波・丹後の伝説』
貞任峠	京都市右京区	道端の祠が貞任の首塚。	
切り畑	京都市右京区	貞任・宗任の遺体を処置した場所。	

○大分県

伝承地	所在地	内容	出典
白木神社	大分市白木	宗任の母「新羅の前」から白木という。母を祀る。	『アテルイ・宗任一終焉を追ってー』
龍雲寺	別府市白木	宗任が大分白木から別府に移って白木とした。貞任の木像あり。	
安田庄	大分市上判田	貞任二男千賀麿が厨川、佐渡を経て叔父宗任に会い、この地に定住。	『安倍宗任ー伝説と史実との接点を求めてー』

○長崎県

伝承地	所在地	内容	出典
頼時の墓	松浦市志佐町白浜免	頼時が流配された。庵を結び、6人の子をもうけた。	『安倍宗任ー伝説と史実との接点を求めてー』
陣山城跡	松浦市志佐町白浜免	別称・宗任館。	
市埜御前の墓	松浦市今福町	宗任の娘、市埜御前の墓。	
弥勒寺跡	平戸市	宗任の墓がある。	

○福岡県

伝承地	所在地	内容	出典
安昌院	宗像市	宗任開基。本尊は宗任の持尊仏、薬師瑠璃光如来。	『アテルイ・宗任一終焉を追ってー』
千年塚	朝倉市	貞任、宗任を祀った墓がある。佐田は「貞」からきている。	
宗任の墓	糸島市	宗任の墓がある。	
大人形祭	みやま市瀬高町	八坂神社例大祭に奉納される祭礼。「筑後の奇祭」と呼ばれる。	

第2表 岩手県の安倍氏関連伝承地一覧

○二戸市

伝承地	所在地	内容	出典
九戸古城	福岡字城ノ内	安倍貞任一族の白鳥三郎高任の居城。	『昔の二戸市』
折爪岳	福岡字織詰	…貞任没落、是の山に入り、縛さる。	

○一戸町

伝承地	所在地	内容	出典
鳥海の柵	西法寺字稻荷	伝鳥海柵と言われている。	市町村アンケートより

○野田村

伝承地	所在地	内容	出典
伏津館	大字野田	安倍の臣、伏津新九朗忠信が居城。	『村の歴史文化手帳』

○岩泉町

伝承地	所在地	内容	出典
見違え窟	門	安倍貞任が源義家に追われ、かろうじて入れる位の幽窟にかくれ、こんな穴に敵がいるはずがないと見違えたので難をのがれた。	『岩泉地方史・下巻』
安倍館	釜津田	安倍館山にある。安倍貞任の居館。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』

○宮古市

伝承地	所在地	内容	出典
清水	和井内	源義家が一泊した。	『新里村史』
鏡石	和井内	源義家が地元を与えた観音像が移った石。	
腰掛石	和井内	貞任の腰掛石があり、義家の矢の刺さった跡がある。	
鎗倉館	茂市	八幡社裏の岩に義家の馬の蹄の跡がある。	
江繁八幡神社	早池峰山付近	源義家が安倍貞任征伐するため建立し、戦勝を祈願した。	市町村アンケートより

○山田町

伝承地	所在地	内容	出典
豊間根	豊間根	安倍氏の一族が現存。	『山田町史 上巻』

○釜石市

伝承地	所在地	内容	出典
安倍館	片岸町	安倍氏の残党が立て籠った。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
桜川古館	鵜住居町	八幡太郎義家の陣所。	
柏館	定内町	八幡館と矢合わせを行った場所。別称・安倍館。	
八幡館	鈴子町	八幡太郎義家の陣所。	

○住田町

伝承地	所在地	内容	出典
襲下山	上有住字平沢	安倍貞任の陣。	『住田町史 第二巻 通史編』
東峰山	上有住	源義家の陣。	
貞任山	下有住字奥火の土	貞任山に根拠を置き、柵を築いた。	

○陸前高田市

伝承地	所在地	内容	出典
小黑山	小黑山地内	貞任の部下が名馬「小黑号」に乗ってきて、この地に土着した。	『陸前高田市地名考』

○八幡平市

伝承地	所在地	内容	出典
八幡宮	西根町平館	八幡太郎義家が建立。	『西根町史 上巻』

○岩手町

伝承地	所在地	内容	出典
御堂観音 弓弦の泉	大字御堂	義家が渴きに苦しんだ際、観音に念じ弓弦で岩頭を突くと清水が出た。	『岩手の伝説を歩く』 『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
一方井城趾	大字一方井	貞任の庶流一方井家。	

○雫石町

伝承地	所在地	内容	出典
七日休み	西安庭	安倍氏を追って来た義家の大軍が矢櫃へ入る際、大風にあい七日間の足止めをくった。この峠を七日休みと名付けた。	『雫石の民話』 (岩手県伝説辞典)
しばりの明神	西安庭	「堀合神社」通称「しばり明神」又は「ひばり明神」という。七日休みを出発した義家軍が、今度はしばりつけられる様な狭い谷間を通る事になり、やっとのことで通過した義家は勝戦を祈願して「しばりの明神」を建立。	
町場	西安庭	義家の大軍が雫石に進んできたという報せに、館ヶ沢の賊将旗越前はとても敵わぬと矢を櫃に入れて川に流し、町場で待つて拾い上げ退却した。	
矢櫃	西安庭	七日休みを通過して進軍してきた義家の大軍は、桂部落まできて戦の準備をし、櫃から矢を取り出し空になった櫃を捨てた。	
はたふく	南畑	紫波から進んできた義家軍は南畑に陣を布いて貞任軍と激戦。貞任軍は敗れ旗を引いて退却した所からこの地名がついた。	

○雫石町

矢川	西安庭	義家の大軍が来るという報せに貞任軍は川から水を引き戦の準備に矢の根を作った。そこでこの金神社社辺りを矢川と呼ぶようになった。	『雫石の民話』 (岩手県伝説辞典)
川井観音	南畑舂沢	戦が不利のため六部に身を変えた義家は、雫石南畑に戦勝祈願の為に持ってきた観音様を安置して、家来の川井某を堂主に残した。	
駒木野	西根	貞任を追って雫石に入った義家軍は西根に入り、軍馬を繋いで休んだ。駒つなぎの野からこの地を駒木野と呼ぶようになった。	
砥石山 (砥石森)	御明神	戦で不利となった義家は僅かの兵を引き連れて荒沢川の合流点の中野館にこもり毎日、館から川を隔てた向かいの山腹の的に弓矢を射っていた。的を外れた矢は鎌が曲がらずかえって鋭く光っている。行って見てみると、的場一帯が砥石山であった。村の人達はそれを聞いて砥石を掘って使い、これが名高い志戸前砥石である。	
北浦館	石田渡地内	館主は北浦六郎重任と言われる。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』

○盛岡市

伝承地	所在地	内容	出典
姫戸柵	安倍館町	安倍宗任が前九年合戦で源義家に捕えられた柵。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
厨川柵	天昌寺町・安倍館町	源義家と安倍貞任の一騎打ちで知られる前九年合戦の最後の砦。	
八幡殿陣場	中太田方八丁外	源頼義、義家の陣所。	『奥州岩手郡栗谷川古城図』
林崎八幡宮	中太田林崎	源義家は水を奉納し、壺から泉が湧き出た。	『岩手郡誌』
敵見ヶ森	前九年三丁目	安倍氏の見張台。	『盛岡物語(拾)』
手掛の松	高松二丁目	厨川の戦いで、源義家は高さ二十米ばかりの松に手をかけた。	
尻切田螺	安倍館町	安倍軍は田螺が早く煮えるように尻を切って煮た。	
片葉の葦	安倍館町	貞任は葦を切り取って敵軍に射ることを教えた。	
上牢	上堂	厨川柵の牢屋のこと。	
下牢	夕顔瀬町	上牢に対して下牢があった。	
中島のネズコ	境田町	中島にネズコの大木があり、安倍氏を攻める時、義家が舟を繋いだ。	
機織沼	天昌寺町～境田町	厨川柵の落城の時、女たちは沼に飛び込んで死んだ。	
逆杉	安倍館町	貞任が突き刺した杖が逆さのまま根付き、大木になった。	
夕顔瀬	夕顔瀬町	兵士を多く見せるため夕顔で作った人形が、合戦後流れ着いた。	
駒形石	前九年一丁目	源義家の馬蹴の蹄の跡がある。	
矢倉	新庄字矢倉	貞任が矢倉を構えた。	
阿部館山	浅岸字中津川	貞任の隠し砦があった。貞任が死んだ場所。	
繫温泉	繫字湯の館	義家が戦で傷付いた乗馬を湯に入れて治したと伝えられる温泉。馬を繋いだ石は現存。	
高陣山	黒川	八幡太郎義家が愛馬に乗って岩上より指揮したときの足跡。	『村の史跡めぐり』

○滝沢市

伝承地	所在地	内容	出典
高館	大釜	宗任の居館。	『滝沢村誌』 『滝沢村の歴史』
千が窪	大釜	前九年合戦の最後に備え、貞任が千人の兵を窪地に隠していた。	
釜口	大釜	源義家が巨大な釜を据え、兵馬の糧食を給与した。	
高波気	大釜	源義家が館とした所。	

○滝沢市

伝承地	所在地	内容	出典
参郷の森	篠木	貞任の女が逃れてきて出産したことから「産後の森」と言われた。	『滝沢村誌』 『滝沢村の歴史』
鎧（よれえ）	役場付近	貞任が逃げてきて、松の木に鎧をかけて休んだ場所。	
木戸口	旗曳谷地下流	敵の進退を抑制し、一ヶ所を木戸口にした。	
松屋敷	鶉飼	婦女子が貞任の帰りを待っていた屋敷。侍屋敷と呼ばれた。	
諸葛川	鶉飼	貞任の兵が大量の粃穀を流した。	
笹森	鶉飼	貞任軍が小高い笹の茂っている森から義家軍を狙い討ちした。	
旗曳谷地	鶉飼	源氏軍の馬の脚が湿地に深くはまり込み、旗の末端を引き摺った。	
安倍足	鶉飼福祉センター裏山	貞任が左足を切り落とされた。草鞋を履いた足が石となり今も残る。	
手這坂	中鶉飼	片足を切られた貞任が手をついて這い上がった坂。	
胴が坂	中鶉飼	貞任が胴を切られた場所。付近は赤土で貞任の血の色と言う。	

○矢巾町

伝承地	所在地	内容	出典
南昌山	南昌山	源義家が霧の為安倍館を望むことが出来ず霧払いの祈願をした。	『矢巾町史・上巻』 （岩手民話伝説事典）
笹淵	大字煙山	源義家は、笹をもって毒を漉しその害を逃れた。	
馬蹄石	大字蔦ヶ平	八幡太郎義家の乗馬の蹄の跡。	
上矢次	上矢次	源義家が矢を造らせた場所。	
岩清水	岩清水	源義家が弓の弓弭で土を掘ったところ、清水が湧き出した。	
矢幅	矢幅	安倍氏時代「矢の羽羽柵」があったといわれる。	
南矢幅	南矢幅	源頼義が矢を造る為の羽根を集めたところ。	
鍋屋敷	鍋屋敷	源義家と貞任の戦いで、糧を炊き出した所。	

○紫波町

伝承地	所在地	内容	出典
比与鳥柵	南日詰字滝名川	安倍貞任の家臣善知鳥文治安方の居館か。	『わたしたちの文化財』
安倍道跡	土館字木金	安倍貞任、前九年合戦の時の交通路。	
陣ヶ岡、月の輪、日の輪形	宮手字陣ヶ岡	源頼義・義家の陣所。「首洗の清水」は貞任の首級を洗った場所。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
首洗の清水	宮手字陣ヶ岡	安倍貞任の首級を洗った場所。	
蜂神社	宮手字陣ヶ岡	源氏軍が厨川柵に対してこの地に陣営を敷き、戦勝祈願した。	『安倍道を探る』

○西和賀町

伝承地	所在地	内容	出典
八幡館	大石	源義家の陣。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
安倍館	大石	貞任の館。	
矢つくしの沢	耳取	義家軍が最後の一本の矢まで射つくして戦い敗戦した場所。	『湯田のむかしばなし』 『岩手の伝説を歩く』
めっこ鯀の沢	耳取	鎌倉権五郎景政が左目を射ぬかれ岩滑川の水で目を洗った。住んでいた鯀はすべて片目になった。	
穴薬師神社	本屋敷	源義家の家来の鎌倉権五郎景政が療養した。	『湯田のむかしばなし』
権五郎穴	草井沢	鎌倉権五郎景政は、岩穴を仮の住まいとした。	

○花巻市

伝承地	所在地	内容	出典
上館	花巻市外台南城小学校付近	安倍館に対する源頼義の陣場。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
矢ノ目館	花巻市葛矢ノ目	方八丁に対する安倍氏の砦。	
宮ノ目方八丁鶴脛の柵	花巻市宮ノ目方八丁	源義家の陣所跡。	
花巻城鳥海の柵	花巻市鳥谷ヶ崎（花巻城跡）	安倍頼時の城柵。	
片目のいもり	花巻市湯口	鳥海弥三郎が片目を射られ苗吹長根の水で矢を抜き眼を洗ったら、住んでいたイモリは片目になった。	『湯口村誌』
白幡	石鳥谷町八幡	源義家が旗を立てた所。	『内史略』（稗貫郡旧記）
安倍穴	大迫町早池峰山付近	安倍貞任が厨川の柵で敗戦した際、隠れ住んだと言い伝えられている岩穴。	『大迫町史』（民俗資料編）
タナ井戸	大迫町内川目（鍋屋敷北）	安倍貞任が早池峰山で田植えをする為に種モミをつけておいた井戸。	『おおはさまの伝説』 早池峰草子
拝峠の鍋掛けの松	大迫町外川目升沢の境	逃亡中の安倍貞任一行が早池峰山が美しく見えた拝峠で一息つく為に峠にあった一本松の枝に鍋を掛けて皆で食事をした。	
愛宕神社の伝説	大迫町大迫	八幡太郎義家が安倍貞任を追って来た時、愛宕神社付近で大変苦戦をした。	
折壁のあき通し	大迫町内川目	八幡太郎義家に追われた安倍貞任が兜の明神に逃れて行く時に通った峠。	
折壁八幡沢の後見坂	大迫町内川目	八幡太郎義家に追われた安倍貞任が兜の明神に逃れて行く途中、馬の足に藤のツルが絡みつき、貞任がそれを弓で叩き付けた所、それ以来、藤が生えなくなったと言う。	
堅沢の八幡館	大迫町堅沢	安倍貞任征伐の際の、八幡太郎義家の居館。	

○花巻市

伝承地	所在地	内容	出典
矢跡石	大迫町内川目黒盛	八幡太郎義家の矢の跡がある石。	『おおはさまの伝説』 早池峰草子
間木の屏風岩	大迫町内川目間木	八幡太郎義家の馬の鉄沓の跡がある。	
駒立石	大迫町猫山(根子山)	八幡太郎義家の馬の蹄跡がある。	
ござ走り岩	大迫町早池峰山七号目～八合目	早池峰山の7合目の岩に八幡太郎義家の馬の蹄跡がある。	
幡矢神社	東和町上小山田石鳩岡の的場	八幡太郎義家が貞任追討の時に陣を敷いた。	『東和町史 民俗篇年表』
貞任のかくれ岩	東和町向田瀬	八幡太郎義家に追われた貞任が隠れた岩屋。	『岩手の伝説を歩く』
安倍館	東和町野金山	前九年合戦の砦。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』

○北上市

伝承地	所在地	内容	出典
黒沢尻柵	北上市川岸	安倍正任の柵。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
泉館	北上市立花沢野	安倍氏の居館。	
古城	北上市黒沢尻	源義家の陣所。	
陣ヶ岡	北上市立花沢野	源義家の陣所。	
鶴波柵	北上市二子	安倍宗任の柵。	
一夜館	北上市稲瀬	鶴脛柵を追われた貞任が一夜を過ごした。	
結緑の松 (妻の神社)	江釣子村妻川	貞任が雲井御前の子に、高星丸と名をつけ、一本松を植えた。	『岩手の伝説』 『岩手の伝説を歩く』
和賀八所八幡神社	江釣子村北鬼柳	貞任の陣所。	『和賀郡誌』
切留	和賀町和賀仙人	安倍軍が断崖に待ち伏せて敵軍を切り留めた。	『北天塾』
切留	和賀町和賀仙人	貞任は要害に義家軍を誘い込み、全軍を切り留めようとした。	
館	和賀町藤根	別称・安倍館。昔この近くに貞任墓と呼ぶ土盛りがあった。	
館森	和賀町横川目	別称・貞任館。安倍一族の戦力育成の拠点。	
後藤野の大柳	和賀町後藤野	貞任は柳の大木二本に縄を張って藁人形を吊るし、軍勢に見立てた。	
岩崎城	和賀町黒岩	貞任の館。かつて源義家との戦の場所。	『陸奥の伝説』

○遠野市

伝承地	所在地	内容	出典
安倍が城	遠野市早池峰山	貞任の母が住んでいた。	『遠野物語』 『遠野物語拾遺』 (柳田國男)
安倍屋敷	遠野市附馬牛町	早池峰の登り口の岩窟の事。	
貞任(地名)	遠野市土淵町	貞任が馬を休ませた所。貞任が陣屋を構えた所。	
八幡沢の館	遠野市土淵町	八幡太郎の陣屋。	
貞任の陣所	遠野市土淵町	八幡沢の向かいの峰の建物が貞任の陣屋。	
足洗川村	遠野市土淵町	鳴川で義家が足を洗った事から「足洗川」。	
貞任山	遠野市土淵町	貞任山には1つ目に1本足の怪物がいた。	
似田貝	遠野市土淵町似田貝	義家がこの地を通る時、兵糧に粥を出され「煮た粥か」と聞いた事から「似田貝」。	
貞任の末裔	遠野市土淵町土淵	安倍氏という家がある。	『遠野物語』『遠野物語拾遺』 (柳田國男)
荒谷	遠野市小友町荒谷	もともと「会矢」といった。義家軍が西から貞任軍が東から矢を射り、行き交い共に落ちた場所。	
貞任砦跡	遠野市小友町平笹	本村と気仙郡下有住村の境。俗称三つ森と呼ぶ。	『とおの小友探訪』 (小友町探訪会)
平笹	遠野市小友町平笹	平笹義兼という者が安倍頼良二八人の武将として存在。貞任山守護としてこの地に住居、開発に当たったという。	
駒形神社	遠野市松崎町駒木	後三年の役で義家の愛馬が脛を折り死亡。その遺体を埋葬したのが始まり。	『馬とくらし』 (遠野市立博物館)
ひとはね岩	宮守村宮守	俊敏な貞任を逃がすまいと、義家は人馬もろとも崖をおり、川岸の岩を踏み台に一気に川を飛び越えた。岩には馬の蹄の跡が残り、以来この地は「ひとはね」と呼ばれている。	『岩手の伝説を歩く』
安倍館	宮守村下宮守野金山	安倍貞任の居館。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
安倍館	宮守村小通	小道の西側山麓に安倍氏一族が拠ったという地がある。	

○奥州市

伝承地	所在地	内容	出典
日高神社	水沢区日高小路	源義家が大雨の為苦戦をしていたが、妙見宮に祈願したところ、大雨が止んで戦勝した。	『岩手のご利益さま』
日高神社義家杉	水沢区日高小路	源義家が使った杉箸を地面に差したものが大杉となった。	『水沢市史・6 民俗』
太刀洗川	水沢区日高小路	源頼義・義家軍が血で汚れた太刀を洗った。	
鎮守府八幡宮	水沢区佐倉河字宮の内	源頼義・義家が神宝神領奉納する。	『水沢風土記 第三巻』
牛頭天皇社	水沢区佐倉河字祇園	源頼義の勧請なりという。	
八幡堂	水沢区姉体町字八幡	源義家が鳩峰岩清水八幡を勧請し戦勝を祈願した。	
竈八幡神社	水沢区佐倉河字竈堂	義家公が貞任誅伐の為、ここに陣を敷いた。そして竈八幡宮を祀った。	
小槻太田堂	水沢区姉体町字小槻	源義家が祭請した。	

○奥州市

伝承地	所在地	内容	出典
出羽神社	水沢区羽田町字御山下	源義家公御再興、幣帛を捧げ江刺郡総鎮守となせると云う。	『水沢風土記 第三巻』
米が滝	水沢区羽田町	安倍貞任が羽黒山に籠っていた時、米を流して滝のように見せたところ。	『江刺郡誌』
高清水	水沢区羽田町	源義家が弭で穿ったところ。	
兎口館	胆沢区若柳字兎口	貞任が籠って防戦した所。	『いさわの民話と伝説』 『胆沢町史XI 民俗編』
大歩	胆沢区若柳字大歩	貞任が大きい歩幅で逃げた。	
猪鼻館	胆沢区若柳字市野々	敗走した貞任軍が立て籠もった。	
門ヶ城館	胆沢区若柳字愛宕	貞任が永徳寺をすてて、ここに来た。	『胆沢町史XI 民俗編』
矢尽山	胆沢区若柳	貞任軍は、矢を射るが、いつしか尽きてしまった。	『いさわの民話と伝説』 『胆沢町史XI 民俗編』
馬留	胆沢区若柳	義家軍は、馬留まで進むと、それ以上進めなくなった。	
片葉の清水	胆沢区小山	源義家の愛馬に水を飲ませた。	
三分森	胆沢区南都田	源義家が大弓を引いて山頂に矢を突き刺した。	
法願館	胆沢区鹿合	敗走した貞任軍が立て籠もった。	『胆沢町史XI 民俗編』
鶴脛柵	江刺区稲瀬	安倍家任の居城。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
繰坂	江刺区岩谷堂	安倍頼時がここで流矢に中った。	『江刺郡誌』
戸隠神社	江刺区伊手	源頼義・義家が祈願した。	『岩手のご利益さま』
陣場	江刺区伊手	前九年合戦の合戦場。	『江刺郡誌』
陣場館	江刺区伊手	源義家の陣所。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
伊出の大石	江刺区伊手	源義家の乗馬の足跡がある。	『江刺郡誌』
白鳥館	前沢区白鳥	館主は安倍貞任の弟、安倍行任とある。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
大麻生野柵	前沢区白山字館	安倍貞任の重臣、麻生玄長（はるなが）の居城。	『前沢町史 上巻』
六日入柵	前沢区白山字古館	安倍氏時代、麻生玄長が予備の城として六日入館を構築した。	『前沢町史 上巻』
安倍館	前沢区稲置字安倍館	館ではなく死者を葬った塚。安倍塚と唱えられていた。	
水尻館	前沢区古城字水上西	貞任の臣、草井川次郎の居城。	
白旗神社	前沢区目呂木八穂神社境内	源義家が陣を敷き、白旗を立てた。	
八幡神社	前沢区目呂木字八幡	従軍兵馬を休めた地に、八幡太郎義家を祀った。	
白山神社	前沢区白山字館	源義家の陣所。	
駒水	前沢区白鳥	源義家の馬が旱天に湧水の場所を発見した所。	
馬ヶ峰	前沢区生母	貞任の馬を埋葬した峰。	
矢立	前沢区生母	源義家の矢が、この地に突き立った事から生まれた地名。	
源氏が崎	前沢区岩堰川下流	大麻生野柵と対陣したことから名付けられた。	
藤原業近柵	衣川区下衣川字並木屋敷	宗任の第一の腹心の藤原業近が守っていた。	『陸奥話記 前九年の役』
瀬原柵	衣川区下衣川瀬原	前九年合戦の記録に現れる柵。	『日本城郭大系第2巻 青森・岩手・秋田』
大森館	衣川区上衣川	安倍氏の隠れ館があったと言われる。	『衣川村の史跡（伝承地）案内』
磐神社	衣川区上衣川	安倍氏が守護神として崇拝したと伝えられる。	
安倍館	衣川区上衣川	安倍氏三代忠頼、忠良、頼良の居館。	
馬駆	衣川区上衣川	安倍氏時代の騎馬訓練跡。	
古戸古戦場	衣川区上衣川	前九年合戦で二度にわたり、戦場となった。	
一首坂	衣川区上衣川	源義家「衣の館はほころびにけり」 貞任「年を経し糸の乱れの苦しさに」と詠んだ。	
古館（安倍新城）	衣川区上衣川石神	安倍貞任の新城。	
駒場	衣川区上衣川	安倍氏の軍馬数百頭繋いだ場所。	
要害	衣川区上衣川	安倍氏が南の稜線を超えてくる敵に備えた所。	
鞍掛奥の館	衣川区上衣川	安倍氏が安倍館の西の備えとして設けた。	
琵琶館（上）	衣川区上衣川	安倍貞任の後見で庶兄の成道の居館。	
らんとう場	衣川区上衣川	八幡山に布陣した義家軍が安倍軍と乱闘し、その戦死者を葬った古墳群。	
八幡山	衣川区上衣川	源氏軍の陣所。	
旧殿古戦場	衣川区上衣川	天喜五年の古戦場の一つ。	
楯代館	衣川区下衣川	安倍貞任の弟重任の居館。	
張山	衣川区下衣川	安倍軍の陣所。	
張山古戦場	衣川区下衣川	天喜五年の古戦場の一つ。	
的場	衣川区下衣川	安倍氏の時代に射的訓練の場であった。	
逢坂	衣川区下衣川	安倍貞任と源義家が初めて対面した場所。	
新矢	衣川区下衣川	源氏軍に迎え撃つ安倍軍が初めて矢を射かけた場所。	
八千坂	衣川区下衣川	安倍貞任が八千の兵を配置した坂。	
向館	衣川区下衣川	安倍一族の居館。	
石倉	衣川区下衣川	安倍一族の宝蔵のあった場所。	
北館	衣川区下衣川	安倍一族の居館。	
馬場跡	衣川区下衣川	安倍氏時代、和我叡登拳神社の祭典にあたり、盛大な流鏑馬が行われた。	
館	衣川区下衣川	前九年合戦で貞任が撤退するまで、安倍氏の居館であった。	

○奥州市

伝承地	所在地	内容	出典
小松館	衣川区下衣川	安倍貞任の叔父僧良照の居館。	『衣川村の史跡(伝承地)案内』
和我叡登拳神社	衣川区下衣川	安倍氏が崇拝したとされる。	
衣川関	衣川区下衣川	頼良時代に館との関連でこの地に移され、安倍氏兄弟が拠点にしていた。	
琵琶館（下）	衣川区下衣川	安倍貞任の後見で庶兄の成道の居館。	
渕端大明神	衣川区下衣川	安倍頼良が兵器を祀り旗鉾神社とも称した。	
並木屋敷	衣川区下衣川	安倍氏の政庁跡。	
宿	衣川区下衣川	安倍氏全盛の頃からの宿場跡。	
下宿	衣川区下衣川	安倍氏全盛の頃からの宿場跡。	
陣場	衣川区下衣川	安倍氏が布陣し、源氏軍を迎え撃った。	
瀬原古戦場	衣川区下衣川	安倍軍の陣場で源氏軍を迎え撃った古戦場。	

○平泉町

伝承地	所在地	内容	出典
達谷の窟	字北沢	義家が大仏を岩に掘りつけた。	『奥州平泉名所記』
衣関	字衣関	頼義・義家が安倍氏征討のとき、衣関月見坂にて戦勝祈願した。	『封内風土記』
駒形嶺	字深山	安倍頼時が白い桜の樹一万本を植えた。	『奥羽観蹟聞老志』

○一関市

伝承地	所在地	内容	出典
小松柵	一関市萩荘	安倍宗任の叔父、良照法師の柵。	市町村アンケートより
石坂柵	一関市赤萩	安倍氏関連の柵と伝えられている。	
足尾山	室根町矢越	源義家が矢を射り、その矢が山を越した事から「矢越山」となった。	
興田神社	大東町鳥海	源頼義の崇敬が篤かった。宝物に貞任の兜の前立てが伝わる。	『岩手の伝説を歩く』
束稲山の桜	東山町田河津	安倍頼時が一万本の桜を植えた。	『東磐井郡誌』
千厩の由来	千厩町	源義家が安倍貞任と戦った際、馬千頭を繋いだ。	「風土記御用書出」1776年
日待山	千厩町八ツ尾沢	源義家が出陣の日を待った。	
河崎柵	川崎町門崎字川崎	金為行の柵。安倍貞任軍はここから黄海に出て戦った。	『陸奥話記 前九年の役』
白幡岡	藤沢町黄海字天堤	源義家が布陣せる岡。	『黄海村史』『藤沢町史』
中田	藤沢町黄海字天堤	源義家が貞任討伐の時の古戦場。	『黄海村史』
熊館（楓樹ヶ城）	藤沢町黄海字熊館	貞任の武将、金為行の出城。	
しだ森（仕度が森）	藤沢町黄海字本沢	源義家が貞任討伐の時、仕度をした場所。	
献上山	藤沢町黄海字熊山	源義家が陣へ兵糧を献上した。	
藤ノ巻館	藤沢町黄海字川口沖	源義家の陣場。	
曲田館	藤沢町黄海字上曲田	源義家の居城。	

第 3 表 金ヶ崎町の安倍氏関連伝承一覧

伝承地	所在地	内容	出典
安倍館（通天館）	永栄門前	宗任居城。	「書出 曹洞宗報恩山永徳寺」1776年（『金ヶ崎町史』（1965）より）
樵路徑	永栄門前	宗任居住の際の駅路。	「書出 曹洞宗報恩山永徳寺」（1776年（『金ヶ崎町史』（1965）より）、『永岡村の歴史』1959年
小歩	永栄小歩	義家が貞任討伐の際小歩（小股）で歩いた。	『金ヶ崎町史』（1965）
愛宕社（永栄）	永栄愛宕河原（現存せず）	頼義義家が建立。	「風土記御用書出 永徳寺村」1776年（『金ヶ崎町史』（1965）より）
大林城（百岡城）	永沢松本館、永栄西柏山他	大林城は昔百岡城ともいい安倍氏の砦であった。貞任の女姉妹も居城していたが、姉妹揃って義家に懸想し、城内の機密を漏らしたため落城したといわれる。	『永岡村の歴史』（1959） 『柏山館跡遺跡報告書』（1990）
菊が森	永栄西柏山他	貞任の娘（妹とも）であるお菊とお鶴が義家に自軍の機密を漏らし、処刑された。後世の人がお菊のために塚をたて、その塚は菊が森と呼ばれたが今はない。	『永岡村の歴史』（1959） 『柏山館跡遺跡報告書』（1990）
つるべおとし	六原（詳細位置不明）	貞任の娘（妹とも）であるお菊とお鶴が義家に自軍の機密を漏らし、処刑された。お鶴は六原丸森の難所から深い谷に投げ落とされた。後世の人がそこを「つるべ落とし」と名付けた。	『永岡村の歴史』（1959） 『柏山館跡遺跡報告書』（1990）
八幡館	永栄九石	前九年合戦・後三年合戦の際に義家が拠った所。	「風土記御用書出 百岡村」1776年（『金ヶ崎町史』（1965）より）
銭干石	永沢平林	義家が胆沢川を渡る際に濡れた銭を干した石といわれる。その石に義家の馬が足をかけ、蹄の跡が残った。	広報かねがさき第283号(1977)
樋田駒形神社	永沢橋本後	源頼義勧請。	「風土記御用書出 永澤村」1776年（『金ヶ崎町史』（1965）より） 「封内風土記巻之十九 永澤邑」（『柏山館跡遺跡報告書』（1990）より）

伝承地	所在地	内容	出典
観音寺廃寺	永沢大林	後三年合戦の兵火にあったが、馬船観音のみかろうじて戦火を免れた。	「書出 眞言宗功德山観音寺」1776年（『金ケ崎町史』（1965）より）
鳥海柵	西根縦街道南、原添下、鳥海、二ノ宮後	安倍宗任（鳥海彌三郎）の館。	「風土記御用ニ付書上控 西根村」1776年（『金ケ崎町史』（1965）より）、町内アンケート（2010）
船越社	西根二ノ宮後	源義家父子貞任討伐の際、胆沢川が洪水で渡れなかったが、船に乗った翁が現れ渡してくれたのを不思議に思い祀った。	「風土記 西根村」1763年、「風土記御用ニ付書上控 西根村」1776年（『金ケ崎町史』（1965）より） 町内アンケート（2010）
諏訪社（金ケ崎神社）	西根諏訪小路	源頼義勧請。	「風土記 西根村」1763年、「風土記御用ニ付書上控 西根村」1776年（『金ケ崎町史』（1965）より）
本宮観音堂	西根本宮	- 源義家が安倍貞任を追討した際、陣場に勧請した。 - 安倍貞任の娘白糸姫が自軍機密を漏らし生き埋めにされた。白糸姫を弔うため義家が建立した。 - 安倍貞任の娘白糸前の墓所。 - 観音堂前には安倍宗任（源義家とも）が掘った桐清水があった。 - 鎌倉権五郎眼洗いの池。 - 宝寿院什物（義家の鏡・貞任着用脚絆）	「風土記 西根村」1763年、「風土記御用ニ付書上控 西根村」1776年、「書出 寶壽院」1776年（『金ケ崎町史』（1965）より）
金ケ崎城（白糸城）	西根仮屋	安倍貞任の叔父河堰太夫為行の居城で、貞任没落後、頼時の娘白糸前が居住した。また義家が貞任討伐後に宿陣した。	「風土記御用ニ付書上控 西根村」1776年（『金ケ崎町史』（1965）より）
西根十二郷	西根	安倍貞任の娘白糸姫（尾ノ上前）の菩提観音を守護させるため、源義家が十二郷を女房たちに与えた。	『金ケ崎町誌』（1934） 『金ケ崎町史』（1965）
倉馳社	三ケ尻瘤木	源義家が立ち寄った。	「風土記 三ケ尻村」1763年（『金ケ崎町史』（1965）より）
片葉の芦	西根壇原	源義家が戯れに芦を薙ぎ払ったところ、片葉の芦しか生えなくなった。	『金ケ崎町史』（1965）
櫓引沢と虚空蔵様	西根櫓引沢	源義家が産気づいた妻を櫓に乗せ降りてきたところが櫓引沢、子供が生まれた所に虚空蔵様を祀った。	中央センター伝承地調査（2010）
八幡館と八幡宮跡（杉の宮）	西根大森	頼義・義家の陣屋。岩に鐙矢を立て武運祈願をした地（八幡宮は焼失・杉の木のみ残る）	「風土記 西根村」（1763）、「風土記御用ニ付書上控 西根村」1776年（『金ケ崎町史』（1965）より）
頭無川	永沢鳥の海	貞任と義家の合戦で流れた大量の血が小川となり、その水源がないという。	『永岡村の歴史』（1959） 『金ケ崎町史』（1965）
愛宕社	西根改断	源義家建立。一本松の傍にある。	『金ケ崎町史』（1965）
一本松（見当松）	西根改断	源義家が植えた松。義家が目標にして進軍したともいわれる。	『金ケ崎町史』（1965） 町内アンケート（2010）
愛宕社（藤巻）	西根藤巻	源義家勧請（詳細不明）。	「風土記 西根村」1763年、「風土記御用ニ付書上控 西根村」1776年（『金ケ崎町史』（1965）より）
駒形神社	西根雛子沢	源義家が太刀を奉納した。	「書出 光善院」1776年（『金ケ崎町史』（1965）より）
伊勢社	西根赤稲田（現存せず）	源義家勧請。	「風土記御用書出」1776年（『柏山館跡遺跡報告書』（1990）より）
伊勢社（川目）	西根川目荒谷	源義家勧請。	「風土記 西根村」1763年、「風土記御用ニ付書上控 西根村」1776年（『金ケ崎町史』（1965）より）
惣前森馬頭観音堂之跡	不明	源義家勧請の観音堂跡。	「風土記 西根村」1763年（『金ケ崎町史』（1965）より）

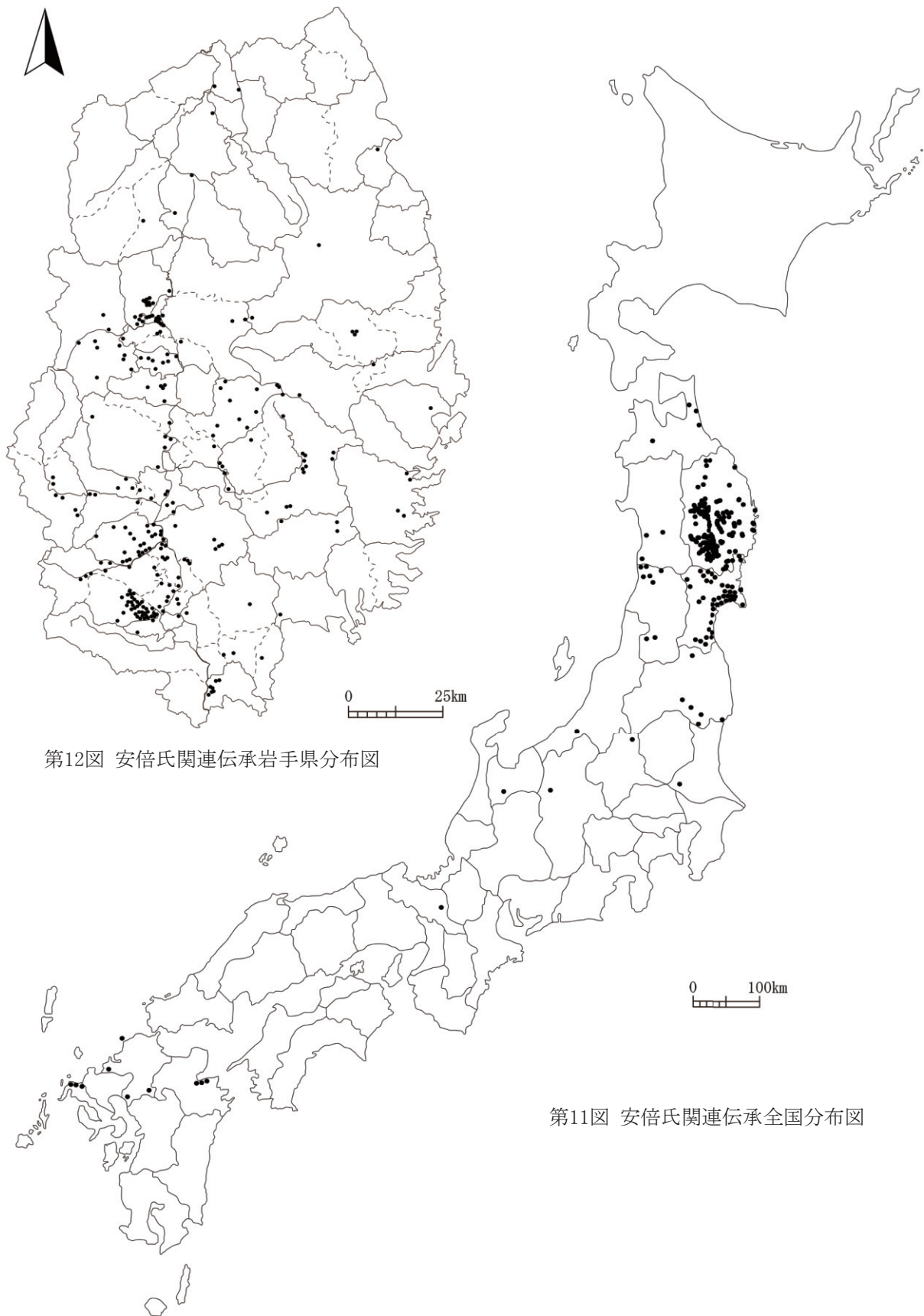


船越社（西根二ノ宮後）



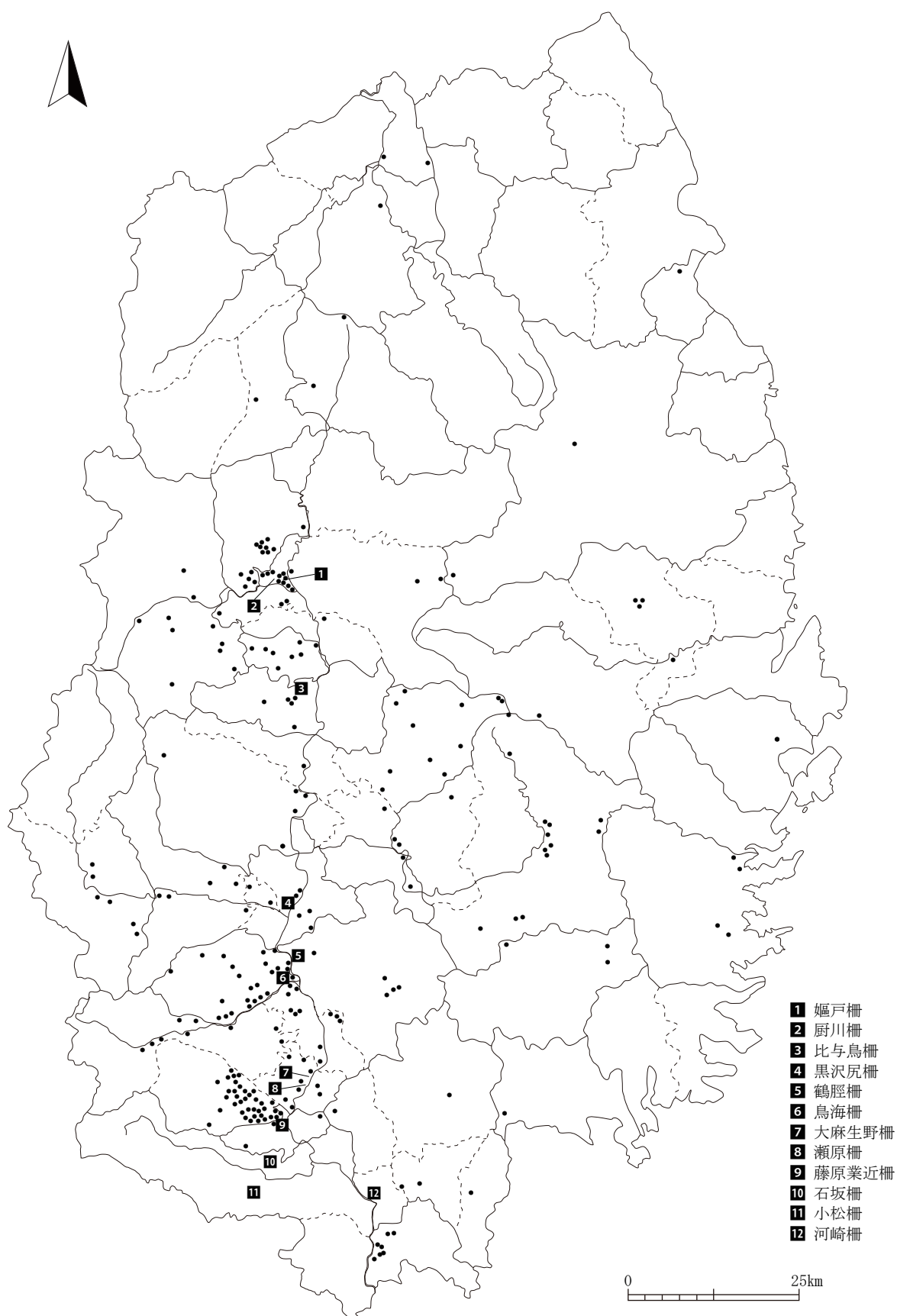
本宮観音堂（西根本宮）

金ケ崎町内の安倍氏関連伝承地



第12図 安倍氏関連伝承岩手県分布図

第11図 安倍氏関連伝承全国分布図



第13図 岩手県の伝承分布と伝12柵図